（管理規則第３条実施要領　別紙様式）



# ２０２４　年度（令和 ６ 年度）学校評価自己評価表

| 至誠中学校区 | 校番 33 | 福山市立至誠中学校 |
|---|---|---|
| 最終更新日 | 2024年（令和６年）４月１日 | |

## Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## Ⅱ　中学校区

**前年度学校関係者評価の主な内容**

- 至誠中学校区３校で義務教育終了段階の子供の姿を共有し、教育活動の充実を図る。
- 一人一人の個性を尊重し、多様性社会の担い手の育成に向けた取組を推進する。

**児童生徒の現状**

- 確かな学力の定着や学習習慣の確立及び基礎体力に課題がある。
- 積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己肯定感が低い児童・生徒もいる。
- 自分で考えて行動することが苦手である。

| | |
|---|---|
| 育成する力（21世紀型“スキル＆倫理観”） | 主体的に学び合う力 |
| めざす子ども像（義務教育修了時の姿） | 課題を発見し、自分で考え、協働して解決することができる子ども |
| 中学校区として統一した取組等 | ○授業づくり<br>単元で『身につけるスキル』を明確にした授業を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 |

## Ⅲ　自　校

**ミッション**

保護者・地域から信頼され，生徒が誇りに思える学校になる

**学校教育目標**

自立的に生き、未来を拓く生徒の育成

**現　状**

＜児童生徒＞
純朴で素直であるが、自分で考え、判断し、行動することが苦手で、指示待ちになることが多い。また、自己肯定感が低く、粘り強く取り組むことに課題がある。

＜授業＞
教師主導型の授業から学習者基点の授業への転換を進めているものの、知識・技能の習得に重点がおかれた授業も多く、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める必要がある。

| | | |
|---|---|---|
| 育成する力（21世紀型“スキル＆倫理観”） | | 知識・技能を土台とする「主体性」「問題解決力」「協働力」 |
| めざす子ども像 | １年 | ・各教科の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。<br>・知識・経験から課題を発見し、解決策を提案し実践することができる。<br>・課題を解決するために収集した情報を比較・分類・整理し、方法を工夫しまとめ、発信することができる。<br>・自らの考えを持ち、他者とのかかわりの中で自らの意見を深めることができる。<br>・自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして捉え、取り組むことができる。 |
| | ２年 | ・基礎的・基本的な知識・技能をもとに、自分の考えをまとめ、表現する力を身に付けることができる。<br>・知識・経験・日常生活から課題を発見し、主体的・計画的に解決のための活動に取組むことができる。<br>・課題解決のため計画的に収集した情報を分析・評価し、相手・目的に応じてまとめ方を工夫し、わかりやすく発信することができる。<br>・他者の意見を肯定的にとらえ、協働して互いの考えを生かし、発展的に物事を考えることができる。<br>・課題に直面しても自らの責任を果たす努力をし、課題解決のために他者と協力して行動できる。 |
| | ３年 | ・基礎的・基本的な知識・技能をもとに、向上心をもって他者との交流の中で、自分の考えを深めたり、論理的に表現したりする力を身に付け、地域や自分の将来に活用していくことができる。<br>・知識・経験・社会状況を関連付けて課題を発見し、協働的・計画的に取り組み、解決の過程や結果を評価することができる。<br>・課題解決のために多角的に収集した情報を分析・評価し、簡潔で説得力のある内容にまとめ、効果的な方法を工夫して発信することができる。<br>・集団や他者との中で、折り合いをつけながら互いに良い部分を引き出しながら、建設的な関係を作ることができる。<br>・課題に向き合うことで自らの責任を果たし、他者と協働して、問題解決し、その結果に責任を持つことができる。 |
| 研究 | テーマ | 情報を整理・分析し、自分の考えを自分の言葉で語れる生徒の育成 |
| | 内容等 | 「聴き取り」、「読み取り」、「説明する」授業を、各教科において創造・実践する |
| めざす授業の姿 | | 単元で『身につける資質・能力』を明確にした授業<br>自律的・協働的に学びに取り組む授業<br>基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題解決をする授業 |

## Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立至誠中学校

| 年目 | 中期経営目標 | 重点 | 分類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価（10月1日） | | | | 最終評価（2月末） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況<br>◎短期(中期)経営目標の達成状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 総合評価 | 改善方策 |
| 1 | 基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成 | | 新規 | 基礎・基本の定着 | ・各教科において、基礎・基本定着のための取組を工夫する。<br>・単元ごとに到達度を把握し、その改善を図る。 | ・全国学力・学習状況調査において、本校の県平均の通過率以上の生徒の割合を昨年度以上にする。<br>・学びの伸びを把握する調査において、昨年度より学力の伸びがみられた生徒の割合を昨年度以上にする。<br>・単元末における定着率80％以上の生徒を70％以上 | | | | | | | | | |
| | | ★ | 新規 | 主体的な学びの促進 | ・単元の系統性を確認し、既習事項を活用させるような学習課題の工夫をする。<br>・単元で身に付ける資質・能力を明確にし、それを活用する課題を単元の中に設定する。<br>・振り返りの視点を示すとともに、赤ペン指導を充実させる。<br>・「自主学習ノート」への指導助言を行うことで、 自己教育力を育む。 | ・「授業では、解決しようとする課題について、『たぶんこうではないか』、『こうすればできるのではないか』と予想しています」の肯定的評価85％以上<br>・「学習の振り返りをするときには、『どこまで分かったか』、『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています」の肯定的評価を80％以上<br>・「自主学習ノートの取組は、自分の学習に役に立っていると思います。」の肯定的評価を70％以上 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 豊かな心と社会性の育成 | ★ | 新規 | SDGｓ学習を土台としたふるさと学習 | ・プロジェクト型学習の考え方を生かし、SDGｓ学習を土台とした社会（ふるさと）貢献のための体験活動・探究的な学習の充実を図る。 | ・「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます」の肯定的評価を85%以上<br>・「今住んでいる地域の行事に参加しています」の肯定的評価を50%以上 | | | | | | | | | |
| | | | 新規 | 生徒の自主的、実践的な態度を育成する教育活動の充実 | ・学校行事等の目的を明確にし、生徒と共有し、精選と充実を図る。 | ・「学校行事では、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の肯定的評価を95%以上 | | | | | | | | | |
| | | | | | ・自治的な活動を充実させ、社会性を養う。 | ・「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めています」の肯定的評価を90%以上 | | | | | | | | | |
| | | | | | ・ボランティア活動等を通して自己有用感を醸成する。 | ・「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います」の肯定的評価を90%以上 | | | | | | | | | |
| 1 | 子どもの学びを支える教育環境の整備 | | 継続 | 保護者・地域との連携及び情報発信 | ・学校だより、学級だより、ＨＰ等による情報発信を行う。<br>・ＰＴＡ本部役員を中心として、随時ＰＴＡ活動の見直しと充実を図る。 | ・「メール配信やHP等の充実により学校の情報は適切に発信されている」の肯定的評価を肯定的85%以上<br>・「学校は、生徒・保護者・地域と連携し教育活動が行われている」の肯定的評価を85%以上 | | | | | | | | | |
| | | ★ | 新規 | 充実感を得られる働きやすい職場 | ・業務の見える化を行い、計画的に効率よく教育活動を推進する。 | ・業務に係る教職員アンケート肯定的評価80%以上 | | | | | | | | | |

［プロセス評価の評価基準］

| 評点 | 評価基準 |
|---|---|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

［達成評価の評価基準］

| 評点 | 評価基準 |
|---|---|
| 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

［総合評価の評価基準］

| 評点 | 評価基準 | |
|---|---|---|
| 5 | １００％以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | ８０％以上１００％未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | ６０％以上８０％未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | ４０％以上６０％未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | ４０％未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |